

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370770

研究課題名(和文)近代遊郭における娼妓・遊客の存在形態と意識構造

研究課題名(英文)Prostitutes and Male Customers in modern Japan

研究代表者

横田 冬彦(YOKOTA, FUYUHIKO)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：70166883

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代遊郭における遊女屋(貸座敷業者)のもとで作成が義務づけられていた「遊客名簿」を素材として、男性遊客の実態(住所・職業・年齢など)と登楼状況(頻度・相方娼妓との関係・消費金額など)、および娼妓の就業状況(1日当りの接客数、休業日数、継続年数)などの復元を試みた。特に地方小都市型の事例として福島県郡山遊郭を主たる分析対象としたが、そのほか大都市型、観光地型などの事例をあわせて、1910-1920年代における遊客数の変遷に、いくつかの類型があることがわかった。また、遊客数の増加は、不況下での消費金額の停滞と娼妓の労働強化を招き、性病罹患率の増加をもたらすことなどもあきらかにした。

研究成果の概要(英文)：Through this research, I analyzed the customer lists of the brothels in modern Japan. These lists show the reality of male users, for example, their age, occupation, address, the frequency and the use amount of money, etc. They also indicate the employment status of a prostitute, like the service number per day, the sickness absence days, the years while constrained in debt and so on.

Around the age of 1910s and 1920s, the number of male customers extremely increased, but there are several types of increasing tendency, for example, one in metropolis, one in rural areas, and one in tourist cities. The increase of customers caused the severity of the working condition and the rise of venereal disease morbidity.

研究分野：日本近世史、女性史

キーワード：近代女性史 遊郭 娼妓 遊客

1. 研究開始当初の背景

これまでの近世・近代遊郭史研究については、いくつかの問題点を指摘できる。

地域に即した実証研究であっても、近世では遊郭地域を含む宿場・町場・村落の町村役人家の史料に、近代では都道府県の政策史料・警察史料や新聞などの史料に依拠しており、近世・近代いずれにおいても遊女屋のそのものの経営史料の発掘は皆無に近く、遊女屋側の事情、さらにはいえば一人一人の娼妓や遊客の具体像(素顔)が見える研究になっていない。

近世遊郭・遊女史と近代公娼制度史は、1872年の娼妓解放令の前後で断絶している。確かに人身売買から貸座敷形態への変更は廃娼運動に法制度上の根拠を与えたが、遊女(娼妓)の「過酷な実態」について、近世と近代を比較する方法が模索されていない。

遊郭を利用する男性遊客について、一部文芸史料をのぞけば、ほとんど研究がなされていない。どのような地域の、どのような身分・階層の、どのような職業の人が、どの程度の頻度で、どのように利用したかなどといった実態は全く明らかにされておらず、近世と近代ではどちらがより広範な庶民階層にまで利用が広がっていたのかという点さえ、不明瞭なままである。

2. 研究の目的

上記の課題に鑑み、本研究は代表者がこれまでに収集した遊女屋そのものの史料、就中、登楼した男性遊客の台帳である「遊客名簿」のデータ分析を基礎とする。

それらの「遊客名簿」から「男性遊客データベース」を作成し、近代遊郭における男性遊客の階層や職業、地域、年齢分析をおこなうとともに、頻度や相方娼妓との関係などを通じてその意識構造にも迫る。また、娼妓についてもその就業実態を明らかにするとともに、その意識構造に焦点を据える。

それらをふまえて、一つは、大都市型(京都・大坂) 地方小都市型(郡山) 観光都市型(伊勢山田・長野)などの類型化をおこない、二つには、近世・近代遊郭史研究を再検討し、かつ近世から近代を通史的に見通すことを目指す。

特に、1910 - 1920 年代に買春が大都市

において大衆化すると考えられるが、この時期に、同時に都市中間層においてサラリーマンや職住分離、専業主婦などが成立し、「良妻賢母」規範が成立することとの関係など、家や社会のあり方をどのように変化させたかが問題になってこよう。

また同じ儒教文化圏に属する東アジア諸国における比較研究を展望する。

3. 研究の方法

本研究が新しくあつかう中心史料である、京都大学で入手した福島県郡山の遊女屋「蓬莱楼文書」を整理し、目録作成、写真撮影などをおこなう。

氏名	年齢	職業	住所	出到	発着	人数	特徴	相方娼妓	金額
藤田 三郎	30	職	福島市	午後7時	午後9時	2		柳鶴	100
山田 一郎	25	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
田中 次郎	35	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
佐藤 五郎	40	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
鈴木 三郎	28	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
高橋 一郎	32	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
渡辺 二郎	38	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
伊藤 三郎	22	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
山本 四郎	45	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
中村 五郎	30	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
石川 六郎	25	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
清水 七郎	35	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
山崎 八郎	40	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
佐々木 九郎	28	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
高木 十郎	32	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
渡辺 十一郎	38	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
伊藤 十二郎	22	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
山本 十三郎	45	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
中村 十四郎	30	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
石川 十五郎	25	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
清水 十六郎	35	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
山崎 十七郎	40	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
佐々木 十八郎	28	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
高木 十九郎	32	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
渡辺 二十郎	38	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
伊藤 二十一郎	22	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
山本 二十二郎	45	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
中村 二十三郎	30	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
石川 二十四郎	25	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
清水 二十五郎	35	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
山崎 二十六郎	40	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
佐々木 二十七郎	28	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
高木 二十八郎	32	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
渡辺 二十九郎	38	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50
伊藤 三十郎	22	職	郡山	午後7時	午後9時	1		雲井	50

(大正4年9月「遊客人名簿 蓬莱楼」)

この名簿では、上欄から、氏名・年令、職業、住所、到着時間・出発時間、人数、特徴、相方娼妓の姓名、消費金額の順で記されている。12日には、午後7時~9時に2人が一緒に来たこと、その相手をした娼妓柳鶴と雲井は午後9時~翌朝6時までまた別の客をとったこと、娼妓により、また同じ時間でも単位金額にかなり差があることなどがわかる。なお、客の人名の一部を塗りつぶしてある。

郡山遊郭および福島県内および東北の遊郭等の関連史料調査、現地調査をおこなう。

明治末から昭和初期まで断続的に存在する蓬莱楼の「遊客名簿」から「男性遊客データベース」(名前・年令・職業・住所、

登楼日・時間、相方娼妓、消費金額など）を作成する（参照）。

そのほか長野・京都・大阪・大和郡山など諸地域の遊郭のデータについても入力する。

各府県警察統計などによって補足しつつ、地域類型化を考える。

2の、また娼妓の性病、信仰などについても考察を進める。

4. 研究成果

(1) 史料調査、「男性遊客データベース」の作成

福島県郡山遊郭「蓬莱楼文書」の整理、目録化、撮影を終え、遊客名簿についてはおおそ入力を終了した。なお、そのほかの経営史料については入力することができなかった。

そのほか長野善光寺遊郭・伊勢古市遊郭について、「遊客名簿」の入力を完成した。これまでに行っていた、大阪4件、京都3件など、をすべて合わせて、男性遊客の総データ数は、3万件以上となった。

本科研調査を通じて、あらたに新潟県柏崎遊郭、青森県八戸遊郭、山形県東町遊郭の資料を調査し、また大阪新町・南五花街の史料を新たに収集した。いずれも男性遊客の名簿を含むものであり、これらの史料が広汎に残存することがあきらかになった。

なお、以上の「男性遊客データベース」については、人権上の問題に配慮して、そのままの形では公開しない。

警察統計史料についても、上記遊郭を含む都道府県について収集した。

(2) 分析結果

郡山遊郭の蓬莱楼においては、男性遊客の過半数が郡山町および安曇郡の周辺農村の「農業」者であり、そのほか福島県内の福島市・岩瀬郡・田村郡・若松郡などがこれにつき、地元密着の特質が顕著に表れた。そのほか、米沢市・仙台市・宇都宮市・新潟市・富山市などがあり、

東京市も1割近くを占め、東北本線をはじめとした鉄道が、遊客を呼び込むことになっていることが明らかとなった。また、次のように1920-30年代に激増するようなことはなかった。

のような地方都市の遊郭に対し、京都・大阪・東京などの大都市遊郭においては、1910-1920年代頃の遊客数の急激な増加が、府県統計上も、個々の遊郭の名簿からも明瞭であった。そして、郡山遊郭など地方小都市がそれほども増加しないのに対して、大都市遊郭との落差がむしろ明瞭になった。また、観光地型は違った増加パターンを示し、本研究における地域類型の設定に重要な意味があることが明らかになった。横田冬彦「遊客名簿」と統計 大衆買春社会の成立」は、京都府を中心に、そうした地域類型ができることの見通しを示したが、なおこれらのデータは分析の途中である。

同じ大都市でも、娼妓中心の遊郭と、芸妓中心の遊郭に分化していくことも顕著な特徴として指摘できる。この点では、分担研究者によって、京都の祇園甲部が明治以降、舞妓・芸妓に特化する花街イメージを打ち出し、性の隠蔽が行われることなどが明らかにされた（高木博志『京都の歴史を歩く』）。なお、祇園が舞子・芸妓を中心にした戦後の史料も、若干収集した。

大都市の娼妓中心の遊郭では、1930年代の不況下になると、消費金額が抑制され、娼妓の労働条件が過酷になり、それが性病罹患率などにも関わることが明らかとなった。こうした状況は、娼妓たちの信仰や思想にも影響を与えている。

軍港や軍隊駐屯地、軍事工場などがある地域の遊郭は、それらの軍事施設の盛衰に依存する寄生性が非常に強いこともあきらかになった（横田冬彦「遊客名簿」と統計 大衆買春社会の成立」では、京都府の舞鶴軍港をとりあげた）。

こうした売買春（遊興としての性、娼妓）の大衆化は、他方で「良妻賢母」を規範として求める生殖としての性および近世・近代における家族・「家」のあり方の問題とも深くつながっている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

・横田冬彦「弾左衛門の蔵書」(『国史研究室通信』50、2015年、p1-2)

・高木博志「皇室の神仏分離と京都」(『龍谷日本史研究』39、p1-19、2016年)

[学会発表](計 1件)

・横田冬彦「近世中期の出産をめぐる人々」(上智大学比較文化研究所シンポジウム「19世紀日本の女性とネットワーク」2014年12月20日、於上智大学)

[図書](計 8件)

・横田冬彦「近世の身分制」(『岩波講座日本歴史 近世1』)2014年、総312頁のうちp277-312

・横田冬彦「「遊客名簿」と統計 大衆買春社会の成立」(歴史学研究会・日本史研究会編『「慰安婦」問題を/から考える』岩波書店、2014年、総258頁のうちp159-166)

・横田冬彦編著『シリーズ<本の文化史>1 読書と読者』(平凡社、2015年、総333頁)

・高木博志「近代天皇制の「秘匿性」と御物」(『フェティシズム研究』2、2014年、p387-393)

・高木博志「伝統文化の創造と近代天皇制」(『岩波講座日本歴史 近代2』岩波書店、2014年、p35-74)

・高木博志「大正期、奈良女高師の東京修学旅行」(『鉄道が作った日本の近代』成山堂書店、2014年、総356頁のうちp76-90ほか)

・小林丈広・高木博志・三枝暁子『京都の歴史を歩く』(岩波書店、2016年)全320頁

・高木博志「皇室の神仏分離と古都京都」(『龍谷日本史研究』第39号、2016年、p1-19頁)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

横田 冬彦(YOKOTA FUYUHIKO)

京都大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号:7016683

(2)研究分担者

高木 博志(TAKAGI HIROSHI)

京都大学・人文科学研究所・教授 研究者番号:30202146

(3)連携研究者

なし